

# Responsible Care NEWS

2017 夏季号



レスポンシブル・ケア<sup>®</sup>





## 一般社団法人日本化学工業協会 第26回定時総会が開催されました

第26回となる日化協定時総会が、5月25日パレスホテル東京にて開催されました。

総会は正会員数258名のうち、246名(委任状出席者169名を含む)の出席の下で開催されました。石飛会長が議長をつとめ、下記議案について審議が行われ、いずれも異議なく原案のとおり承認されました。

### 議案

#### 1. 報告事項

平成28年度事業報告及び決算報告の件

#### 2. 審議事項

第1号議案 理事選任の件

第2号議案 平成29年度事業計画及び収支予算の件

開会にあたり、石飛会長より、『昨年5月の会長就任以来、「安全確保の取り組み」「化学品管理の取り組み」「持続可能な社会の実現への貢献」を重点テーマとし諸施策を推進してきた。安全確保の取り組みでは産業安全塾の開催、化学品管理の取り組みでは昨年6月に施行された改正労働安全衛生法に対応したセミナーの開催、また、こうした環境安全や化学品管理、レスポンスブル・ケアなどの地道な取り組みを通じての、持続可能な社会の実現に向けての貢献を行ってきた。こうした活動と貢献の発信を行うことで、化学産業に携わる人々のモチベーション向上、社会の理解向上にもつなげていきたい』旨が述べられました。(詳細次ページ)

### 議事

会議開催に先立ち、議長より、日化協独占禁止法遵守ガイドラインを確認し、適法で会議を運営することが宣言されました。

#### 報告事項 平成28年度事業報告及び決算報告の件

議長の指示により、渡辺専務理事が、平成28年度事業報告及び収支決算報告の各案は、5月9日の監事による

監査を経て、5月15日開催の総合運営委員会、5月17日開催の審議委員会、5月22日開催の理事会において、それぞれ承認を得ている旨を報告し、内容について説明を行いました。引き続き、監事を代表して小柴満信監事が、5月9日に開催した監事会において、平成28年度事業報告書、及び決算報告について監査をした結果、記帳等はいずれも正確であり、また経費の支出も適正かつ妥当であったことを報告しました。

#### 第1号議案 理事選任案の件

次に議長の指示により、渡辺専務理事が、理事2名の選任につき、各人について、議場に諮りました。

後、議長が本件原案通り承認願いたい旨を議場に諮ったところ、下記の各人について、全員異議なく選任が原案どおり可決承認されました。なお、両理事の任期は、他の理事の任期と同じとなります。

#### 記

理事 永松 茂樹 三井化学株式会社

理事 石井 一弥 一般社団法人日本化学工業協会

#### 第2号議案 平成29年度事業計画及び収支予算の件

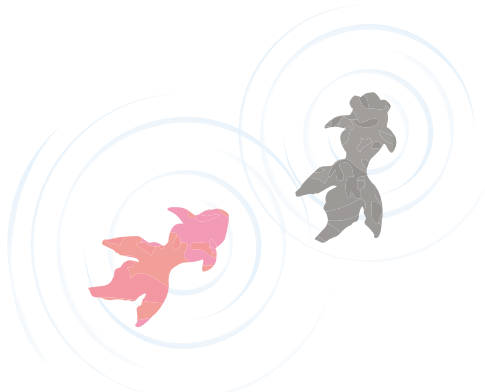
次に議長の指示により、渡辺専務理事が、3月13日開催の総合運営委員会、3月15日開催の審議委員会、3月17日開催の理事会において、それぞれ承認を得て提案されたものである旨を報告し、平成29年度事業計画案及び収支予算案について説明しました。

後、議長が本件原案どおり承認願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なく原案どおり可決承認されました。

### 閉会

議長は以上をもって、一般社団法人日本化学工業協会第26回定時総会の全議事を終了する旨を述べ、議場にその協力を感じ閉会を宣言しました。

# 第26回定時総会における 石飛会長挨拶



昨年5月に会長に就任して以降、「安全確保の取り組み」「化学品管理の取り組み」「持続可能な社会の実現への貢献」を重点テーマとし諸施策を推進してまいりました。

## (1)安全確保の取り組み

安全確保の取り組みにつきましては、過去に発生した重大な事故事例の教訓を生かした現場教育支援を継続するとともに、各企業の安全管理分野でコアとなって活躍される方の育成を目指し「産業安全塾」を引き続き開催いたしました。また、プラントの運転データを活用した事故予兆システムの実証事業など、新たな取り組みも推進しております。

## (2)化学品管理の取り組み

化学品管理の取り組みにつきましては、サプライチェーン全体で化学製品に対する信頼を守っていく観点から、昨年6月に施行された改正労働安全衛生法に対応したセミナーを全国各地で実施し、化学メーカーだけでなく幅広い業界から多くの方に参加いただきました。また、当協会が提供する担当者向けの化学物質管理支援ツールの利用も広がっております。

## (3)持続可能な社会の実現への貢献

日本の化学産業は、高付加価値な製品の開発に加



え、今申し上げたような環境安全や化学品管理、レスポンシブル・ケアなどの地道な取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に向けて貢献しております。そうした貢献を業界内外問わず広く発信していくことも当協会の重要な役割のひとつと考えております。その一環として、現在、国際社会が共有する、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)で掲げるターゲットに、日本の化学産業が持つ強みを生かすどのように貢献していくのかという点について、年明けよりタスクフォースで議論いたしました。そこで得られたメッセージや、企業におけるSDGsに関する取り組みの事例などを、今後さまざまな機会を通じてお示ししていくことで、化学産業に携わる方々のモチベーション向上、社会の理解向上につなげていく考えです。

本年度も3つの重点テーマを中心に、従来の活動を深化させるとともに、イノベーションの源泉である人材育成や、長期的な地球温暖化対策といった先を見据えたテーマ、環境・安全に関する海外支援活動などにも積極的に取り組み、化学産業の発展のために尽力してまいります。今後とも、皆様方のご理解・ご支援賜りますようお願い申し上げます。

# 安全賞、技術賞、レスポンシブル・ケア賞の表彰式を実施

5月25日パレスホテル東京にて開催されました日化協定時総会に先立ち、日化協安全表彰(最優秀賞、安全優秀賞(特別賞)、安全優秀賞)、日化協技術賞(総合賞、技術特別賞、環境技術賞)、日化協レスポンシブル・ケア賞(RC大賞、RC審査員特別賞、RC優秀賞、RC努力賞)の表彰式が執り行われました。

今回表彰されたのは以下の方々です。

## 第41回 日化協 安全表彰



### 【安全最優秀賞】

- ・東レ株式会社 千葉工場

### 【安全優秀賞(特別賞)】

- ・住化コバストロウレタン株式会社 新居浜工場
- ・星光PMC 株式会社 千葉工場

### 【安全優秀賞】

- ・昭和電工エレクトロニクス株式会社

## 第49回 日化協 技術賞



### 【総合賞】

- ・東レ株式会社：高機能性逆浸透膜の開発

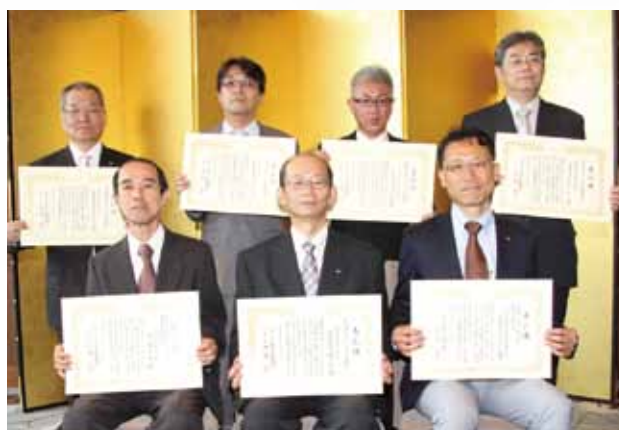
### 【技術特別賞】

- ・花王株式会社：高機能特殊増粘剤『ビスコトップ』の開発

### 【環境技術賞】

- ・栗田工業株式会社：ボイラ効率の維持・改善によりCO<sub>2</sub>排出削減に寄与する“ドリームポリマー”の開発・上市

## 第11回 日化協 レスポンシブル・ケア賞



### 【RC大賞】

- ・株式会社ダイセル 姫路製造所網干工場：  
仕上りを品質として捉えた定期修理

### 【RC審査員特別賞】

- ・住友化学株式会社 先端材料開発研究所 技術室 RCチーム：  
RCマネジメントシステムのレベルアップに向けた取り組み～職場での自律した管理を目指して～
- ・旭硝子株式会社 千葉工場：  
ノンテクニカルスキル教育の普及

### 【RC優秀賞】

- ・三菱ケミカル株式会社 環境安全テクニカルプラットフォーム：  
プロセス安全技術者の育成
- ・ライオン株式会社 生産本部 千葉工場：  
水環境保全先進工場を目指した水環境保全と地域貢献に向けた取り組み
- ・花王株式会社 和歌山工場保安力強化プロジェクト：  
保安強化：危険源管理

### 【RC努力賞】

- ・株式会社カネカ 鹿島工場 環境安全・品質グループ：  
「安全の部屋」教育による“安全最優先”意識及び安全技術習得の活動

# 「第11回日化協レスポンシブル・ケア賞」の受賞講演が行われました

6月30日開催の「日化協シンポジウム2017」において、第11回日化協レスポンシブル・ケア賞・RC大賞を受賞された(株)ダイセル、およびRC審査員特別賞、RC優秀賞を受賞された5社の各代表の方々から受賞講演(活動内容の紹介)が行われました。



| 賞名     | 受賞者   | 表彰テーマ  | 活動内容   |
|--------|---|--|--|
| RC大賞   | (株)ダイセル<br>姫路製造所<br>網干工場<br>山口 裕康 和木 稔浩<br>増田 直之 丸尾 勝也<br>二井 正則   | 仕上りを品質として捉えた<br>定期修理                                     | 定期修理結果を製造部門に提供するサービス品質と捉えた活動であり、定期修理後のスムーズな生産再開に貢献している。工事リスクアセスメント、工事リハーサル、フランジ締付技量認定などPDCAを廻しながら、独自性のある活動を展開中。工事に関するルールは社内基本ルール集として継続的に改訂している。                  |
| 審査員特別賞 | 住友化学(株)<br>先端材料開発<br>研究所<br>技術室<br>RCチーム<br>木田 泰孝 岩瀬 定信<br>真家 佳代 西山 信子<br>黒飛 義樹   | RCマネジメントシステムの<br>レベルアップに向けた取<br>り組み～職場での自律した<br>管理を目指して～ | 筑波地区研究所は、RCマネジメントシステムに更なる創意工夫を加えながら、職場単位で自律した改善活動が行われる仕組みを構築し、所員一丸となりRC活動を実践してきた。開所から27年以上にわたり社員休業無災害、保安および環境事故ゼロを継続しており、ベストプラクティスも積極的に公開している。                   |
|        | 旭硝子(株)<br>千葉工場<br>南川 忠男 永田 浩一<br>中村 博之 長谷川泰央  | ノンテクニカルスキル教育<br>の普及                                      | 従業員個々の安全スキル解析手法を確立し、ヒューマンエラーを含むヒューマンファクター（ノンテクニカルスキル）まで踏み込んだ教育に発展させ、ヒューマンエラー起因災害低減に大きな貢献をしている。化学業界では初めてのノンテクニカルスキル導入であり、さらに他事業所、他社に広がっている。                       |
| 優秀賞    | 三菱ケミカル(株)<br>環境安全<br>テクニカル<br>プラット<br>フォーム<br>高橋 和成 安永 修一<br>岡崎 正行 徳竹 修一<br>村井 浩也 角野 元彦<br>中川 昌樹                        | プロセス安全技術者の育成   | 製造プロセスのリスクアセスメントを強化・充実させるためにプロセス安全技術者の育成に取り組んでいる。育成カリキュラムには、リスクアセスメントを確実に実践・指導ができるスタッフの育成教育、プロセス安全の基礎教育、安全評価手法教育等がある。8年にわたる活動を経てリスクアセスメントのレベルが向上し、全社的な活動に発展している。 |
|        | ライオン(株)<br>生産本部<br>千葉工場<br>野洲 久義 植村 昌彦<br>船田 貴洋 三富 龍介   | 水環境保全先進工場を目指<br>した水環境保全と地域貢献<br>に向けた取り組み                 | 千葉工場は操業開始以来、水リスクに備えた水環境保全活動を継続実施してきた。工水の浄化による使用水製造、工程排水リサイクル、法令基準より厳しい排水管理等を推進し、水使用量と排水量削減、および水質保全の成果を上げている。さらに、地域の子供たちや見学者等に対し、水の大切さの啓発も実施。                     |
|        | 花王(株)<br>和歌山工場<br>保安力強化<br>プロジェクト<br>廣田 敦史 上野 訓史<br>松岡 翔 森本 浩次<br>竹内 一智 辻 康史<br>森 健博 三木 善雄<br>前山 卓哉 田首 昌希<br>藪 善人 馬場 章亘 | 保安強化：危険源管理   | 和歌山工場では、3省合同災害対策連絡会議の報告書を基に事業者が取り組む対策に対し、多品種バッチ設備において、変更管理体制の強化、重合発熱設備異常現象発生時の行動マニュアル強化、保安事故防止ガイドライン(初版)のエビデンス精査等を2016年に完了した。社内の類似設備にも横展開中。                      |

## 受賞講演



ダイセル  
丸尾氏



住友化学  
木田氏



旭硝子  
中島氏



三菱ケミカル  
角野氏



ライオン  
植村氏



花王  
吉岡氏

# 平成29年度安全シンポジウムを開催

平成29年度の第41回日化協安全最優秀賞、安全優秀賞が決定し、6月30日に安全シンポジウムをイノホール&カンファレンスセンター(東京霞ヶ関)にて開催しました。



三木 工場長

## 東レ株式会社

千葉工場(三木 工場長)

- 当工場は1970年に京葉臨海工業地帯で操業を開始、178万㎡の敷地でABS樹脂を製造しています。ABS樹脂の反応はラジカル重合で、原料は自己反応性のある危険物の取り扱いが多いのが防災・安全面での特徴です。
- 東レは経営方針で「安全・防災・環境」を最優先しており、経営理念の中の企業行動指針の第1番に「安全と環境」を位置付けており、トップダウンの安全管理が特徴です。千葉工場では、1990年にそれまでの安全に対する基本思想を整理・制定した安全理念(①安全は全てに優先する、②事故・災害は全て防止できる、③一人ひとりの生涯無災害を目標とする)及び安全行動指針を基に、トップダウンの安全管理を基本に一人ひとりのボトムアップの安全活動を融合させた安全活動を継続していることが特徴です。
- ゼロ災に向けての安全活動には特に斬新なものはないですが、各々に愚直に粘り強く、徹底して取り組んでいます。賞に恥じぬよう、なお一層、安全に取り組んでまいります。



河田 執行役員工場長

## 住化コベストロウレタン株式会社

新居浜工場(河田 執行役員工場長)

- 当社は、ポリウレタンと塗料・接着剤の原料素材の提供を目的としてドイツ・バイエル社(現在、素材化学事業はコベストロ社)と住友化学工業(現：住友化学)の共同出資により1969年に設立されました。新居浜工場では1971年よりポリウレタン原料のイソシアネートやポリオールなどを製造しています。
- 「怪我をしてまでする価値のある業務はない」をモットーに安全を全てに優先させることを基本理念としています。従業員ひとりひとりの意識改革を進め、両親会社の健康・安全・環境・品質に関する活動を取り入れた相乗効果により、20年以上にわたり完全無災害を継続しています。
- 常に従業員が安全に対する意識を高めるように、安全の基本である指差呼称、危険予知、ヒヤリハットをはじめ、各種のパトロールやリスクアセスメント、さらにはHAZOP、TPMといった幅広い活動を切れ目なく実施しています。今後も一丸となって、安全文化を深化してまいります。

## パネルディスカッション



田村安全表彰会議議長

パネルディスカッションでは田村安全表彰会議議長の司会で、事例紹介いただきました各事業所代表と日化協・永松常務理事がパネリストとして参加し、無災害を継続するための運営や活動のポイント、安全教育に対するトップの役割等についてご討議いただきました。

続いて会場からのアンケート質問では労働安全に関する現場に即した具体的な質問をいただき、特に現場の自主的な活動の仕掛け作りや業務負荷軽減について、また作業員一人

一人に対する危険感受性の向上や新たなKYT手法について各パネリストから貴重なご意見を伺うことができました。

また災害情報の伝達方法や最近のトピックスである化学物質のリスクアセスメントの対応状況等、幅広い質問が寄せられ、各パネリストから貴重なご意見を伺うことができ大変有益な場となりました。

ディスカッションの結びに永松常務理事より討議全体に対する感想として、「トップの安全活動推進と現



草間 工場長

## 星光PMC株式会社

千葉工場(草間 工場長)

- 千葉工場は、1969年の創業以来、多品種にわたる製紙用の添加薬品を主にバッチ生産方式で製造しています。親会社DIC千葉工場の一角に位置し、従業員35名の小規模な工場です。
- 1973年から44年休業災害ゼロを継続しています。特に格別な安全活動をやってきたことはなく、ヒヤリハット発掘、KY活動などに長年継続的に取り組んでいます。現在千葉工場には30代の従業員がおらず年齢構成が問題です。安全に直接関わる技能を世代ギャップを超えて伝承するため、近年若年層に対しスキルマップ等のツールを活用し、フォーミュラ勉強会、手動釜訓練などのKNOW WHY教育による計画的な技能伝承を推進しています。
- DICグループの一員として得られる安全情報や訓練の機会と独自の活動を並行させ、長年築いてきた無災害記録を今後も継続してまいります。工場全体に目配りできる規模のメリットを生かし、トップの覚悟を全従業員に伝え、神経の行き届いた安全活動を進めていきます。



塩見 副工場長

## 昭和電工エレクトロニクス株式会社

HD工場(塩見 副工場長)

- 当社は1989年にハードディスク記憶媒体の生産を開始し、昭和電工(株)HD事業における全世界6拠点の中で開発・生産の中核拠点として、研究開発と生産活動を行っています。事業場の敷地面積は約11万㎡、生産施設面積は約1万3千㎡あり、約400名の従業員が働いています。
- 記憶媒体の高容量化に対応するため、高度なクリーンルームの中に自動化ラインを設置しています。自動化ラインにより機械動線と作業動線の隔絶を行い、ハード的な安全対策を推進しています。
- 安全活動は事業規模の拡大にあわせて段階的に高度化させてきました。コミュニケーション、安全意識、自覚意識などの向上活動からリスクアセスメントによる危険度の定量化、ITを活用した信頼性向上を進め、着実に安全性を高め、昨年5月、厚生労働省から第三種無災害記録証を授与されました。今後も無災害が継続するよう安全活動を進化させていきます。

場意識との融合の重要性、そしてそれを徹底するために中間マネジメント層の役割分担や双方向の対話に注力されていること、トップを中心として組織全体でPDCAを回してい

くことの重要性を再認識させられました。非常に有意義な時間を与えてくださった受賞各社の皆さんに改めて感謝致します」とのコメントがありました。

最後に田村議長から参加いただきました皆様へ保安・安全の推進に向けて、貴重な意見交換ができたことへの感謝のお言葉をいただき閉会となりました。



# Responsible Care NEWS

No.86  
SUMMER

## Index

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
| 一般社団法人日本化学工業協会 第26回定時総会が開催されました  | 2 |
| 第26回定時総会における石飛会長挨拶               | 3 |
| 安全賞、技術賞、レスポンシブル・ケア賞の表彰式を実施       | 4 |
| 「第11回日化協レスポンシブル・ケア賞」の受賞講演が行われました | 5 |
| 平成29年度安全シンポジウムを開催                | 6 |
| RC委員会だより                         | 8 |

## RC委員会だより

### ☆会員動向 (会員数：111社 2017年7月末現在)

入会(7月1日付)

- ▶ 三井物産株式会社
- ▶ 株式会社UL Japan

### ☆行事予定

- 9月11日～12日 リスクコミュニケーション研修
- 10月13日 会員交流会(名古屋)

### 表紙写真の説明

#### 三菱ケミカル富山事業所から望む初夏の立山連峰

雄大な立山連峰を背景に富山事業所は位置しています。

事業所からは四季折々の立山連峰を楽しむことができ、春は、雪化粧した立山連峰と夕焼けが圧巻です。

三菱ケミカル株式会社提供

### 編集後記

ふと気がついて調べてみたら、今年の夏は全国的に蝉の鳴き始めが遅く、蝉の数も少ないとのことでした。実際、東京周辺では蝉の鳴き声が例年よりかなり少ないと感じます。夏は、うるさいくらいの蝉の声とカラッとした太陽というのが良いものです。

2017年度のRC NEWSは、No.85(5月発行済み)、No.86(本号)、No.87(11月末発行予定)の年3回の発行にすることとしました。発行回数、頁数等は例年より減りますが、密度を濃くして従来に劣らない内容とする予定です。今後ともよろしくお願ひします。

RC NEWSのバックナンバーは、以下アドレスにてご覧いただけます。

▶ <https://www.nikkakyo.org/organizations/jrcc/rc-news-page>